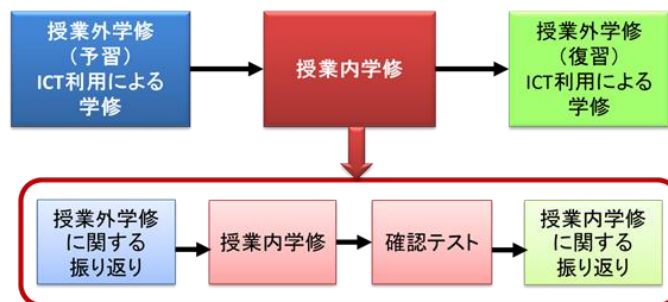


取組実績の概要（2 ページ以内）

【テーマⅠ】：アクティブ・ラーニング（以下、AL）については、授業内と授業外の学修を有機的に結合させ、語学教育に適した「反転授業型アクティブ・ラーニング（以下、反転授業型 AL）」に関する授業デザインや教材の開発・実践に取り組んだ。

また、授業外学修における「目標設定→実行→振り返り」の一連のサイクルを学生自身が自律的に行うことをサポートする「自己調整学習支援システム（以下、SRL システム）」を構築し、学生の主体的な学習を支援する環境を整えた。

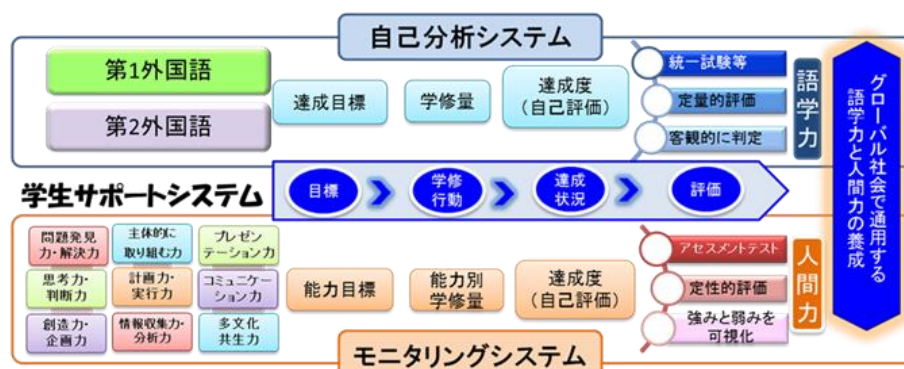


授業の実践では、英語科目や3年次生以上を対象にした他言語科目において、より高度な言語運用能力育成のため、SRL システムの機能にあるソーシャルラーニング機能やオンライン学習教材を利用した授業を通じ、授業内外を有機的に結びつける授業デザインを設計した。1年次生を対象とした英語以外の初修言語においては、基礎的な言語スキル獲得にふさわしい学習教材の開発などを行った。先行的に反転授業型 AL の実践を行った科目については、効果と問題点について分析を行い、外部の研究会等にて広く取組を発信した。

AL に関しては、さらに本学の外国語教育に適した授業デザインの開発に引き続き取組、学科や科目ごとの実践事例をまとめたリポジトリを作成した。また、語学学習にふさわしい反転授業型 AL の手法や授業デザインなどについての知識を教員間で共有し、より多くの科目で展開した。各学科で先行的に反転授業型 AL が導入された科目において得られた成果等を踏まえ、学科カリキュラムへのフィードバック等を行い、AL の推進を図った。

【テーマⅡ】：学習成果の可視化については、可視化に向けた基本的な調査及び情報収集と、既存の「学生サポートシステム」に外国語学習の達成状況を確認する「自己分析システム」と、汎用的能力の自己評価や客観的評価を確認する「モニタリングシステム」を新たに付加し、学修成果を客観的に測定するための基盤整備を行った。学修成果の可視化のために必要な学修能力や学修行動、到達度に関する指標を整理し、英語以外の言語については学修成果を測定するために必要な「統一試験」を開発・実施した。

また、外部のアセスメントテスト（PROG）の定期的な受験を制度化し、データをシステムに集積することで、アカデミック・アドバイザーである教員が面談等で活用（学生の強み・弱みの把握等）できるようにした。学生と教職員が蓄積された情報を共有することで自律的な成長の支援へ繋げた。その他、構築したシステムに蓄積されたデータの分析と活用、周辺のデータと結合した可視化の範囲の拡大や横断的分析など、データの有効活用についても行った。可視化されたデータを教員が学生への学修アドバイジングに活用するための研修等も実施し、指導の質の向上も図った。



全学的な取組としては、FD や SD で教職員を対象とした AL に関する講演会や勉強会を定期的実施した。また、外部講師を招聘して AP シンポジウム等を開催し、学修成果の可視化についての先進的事例を参考にして AL の推進や授業デザイン設計の一助とした。

## 【実績・成果】

- ①英語科目における授業外学習教材の導入 ②汎用的能力を測るアセスメントテスト（PROG）の導入  
 ③「自己調整学習支援（SRL）システム」の構築  
 ④学修成果を可視化するための「自己分析システム」及び「モニタリングシステム」の開発  
 ⑤外国語の学習成果をより詳細に測定する新たな「学内統一試験」の開発及びその成果測定と分析  
 ⑥卒業生及び就職先企業への調査実施と結果公表 ⑦定期的な学内研修及び公開シンポジウムの開催

## 【本取組の質を保証する仕組み】

取組全体の評価は「5 ヵ年計画評価委員会」で行い、外部評価委員からのアドバイスも参考にして、次年度の計画に反映し、継続的に改善していく体制を構築した。また、テーマⅠとテーマⅡを包括的に推進するために「AP 推進委員会」を設置し、テーマごとに事業推進グループを設けた。委員会は事業推進グループのリーダー、FD 委員、SD 委員がメンバーとして参加し、学内での事業の企画・推進や周知等を行った。反転授業型 AL については、各学科に責任者をおいて授業デザインや教材開発を進め、AL のより一層の推進を図った。各学科で実施する AL の授業外学修支援については外国語自律学習支援室（NINJA）を中心として進め、専門的な知識やスキルを有した常駐の専従ラーニング・アドバイザーや、ラーニングアドバイスの研修を受けた専任教員、外国人教員が協働し、それぞれの学習者にあった支援をしている。

学修成果の可視化については、学生サポートシステムやアンケート調査等によって収集したデータを分析する体制が学内に整備されており、IR を専門とする専任教員が詳細なデータの分析とレポート、分析結果の公表や教員へのデータ提供を行っている。学生サポートシステムの中に構築された自己分析システムやモニタリングシステムを活用することで、アカデミック・アドバイザーが的確なアドバイスを行い、学生の自律的な成長を支援する体制を整えた。

## 【必須指標の達成度】

	平成 26 年度 (起点)	令和元年度	
		目標	実績
アクティブ・ラーニングを導入した授業科目数の割合（導入科目数／総科目数）	52.1% (697/1339)	61.5% (800/1301)	78.6% (968/1232)
アクティブ・ラーニング科目のうち、必修科目数の割合（必修科目数／総科目数）	56.8% (396/697)	42.1% (337/800)	32.7% (317/968)
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合（受講学生数／在籍者数）	83.5% (3694/4424)	82.2% (3700/4500)	82.3% (3235/3930)
学生 1 人当たりアクティブ・ラーニング科目受講数（受講延べ人数／在籍者数）	11.01 (48689/4424)	14.67 (66000/4500)	16.06 (63107/3930)
アクティブ・ラーニングを行う専任教員数（実施専任教員数／総専任教員数）	120 人 (83.9%)	120 人 (85.7%)	128 人 (95.5%)
学生 1 人あたりのアクティブ・ラーニング科目に関する 1 週間の授業外学修時間	5.0 時間	6.2 時間	5.4 時間
退学率（退学・除籍者数／在籍者数）	3.3% (146/4424)	2.1% (95/4500)	2.8% (109/3930)
プレイスメントテストの実施率（テスト実施者数／入学者数）	99.4% (947/953)	99.0% (1040/1050)	99.9% (824/825)
授業満足度アンケートを実施している学生の割合（延べ回答者数／延べ登録者数）	70.0% (32611/46580)	71.3% (38500/54000)	72.6% (54949/75654)
授業満足度アンケートにおける授業満足率（5 点満点）	4.07	4.00	4.11
学修行動調査の実施率（延べ回答者数／延べ登録者数）	70.0% (32611/46580)	71.3% (38500/54000)	72.6% (54949/75654)
学修到達度調査の実施率（学生サポートシステム利用学生数／在籍者数）	85.9% (3802/4424)	95.0% (4275/4500)	93.1% (3657/3930)
学生の 1 週間あたりの授業外学修時間	5.1 時間	6.8 時間	7.5 時間
学生の主な就職先への調査（※）	無	予定無し	無

※「学生の主な就職先への調査」については平成 28 年度のみ実施した。

（テーマ：Ⅰ・Ⅱ複合型、大学等名：京都外国語大学）